

2023_0913「北極圏の波状巻積雲（写真）」日々の理科 3324号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

北極圏に設置したオーロラ観測用のカメラは、時々オーロラ以外の現象もとらえます。特に北極圏の雲の観察にはなかなかの威力を発揮します。

先日も夕暮れ時に「波状巻積雲（はじょうけんせきうん）」という雲をとらえていました。対流圏上層部に形成される巻積雲は100%氷晶の雲ですが、さまざまなバリエーションがあり、その一つが「波状雲（はじょううん）」です。波状雲は巻積雲以外にも、高積雲、高層雲、層積雲などの型としても現れることがあります。波状雲の出現は、その雲が形成された高度の大気に、波動（上下動）が存在する証拠と考えられています。

波状巻積雲が現れているのは比較的短時間で、早いものでは数分、長くても1次官は持ちません。年間を通じて定点観測をしているからこそとらえることができた、一瞬の雲の姿と言えるでしょう。

(2023年9月中旬／スウェーデン北部・ヨックモック郡・ポルユス)

